

# 広域交通ネットワークの形成に関する調査

## (2)しまなみ海道を拠点とした観光交通アクションプラン

### 1 調査の背景・目的

瀬戸内地域は、美しい海に多数の島々が点在する独特の自然景観を有し、海路の要衝として数々の歴史と文化を育んできた魅力あふれる観光エリアである。

平成11年5月には、本州四国連絡橋として第3番目の尾道・今治ルート『しまなみ海道』が開通し、瀬戸内地域の観光・交通は大きな飛躍の時代を迎えようとしている。しまなみ海道は、本州四国を結ぶ広域周遊観光ルートの形成とともに、瀬戸内地域の観光振興の拠点として大きな役割が期待されている。

本調査は、瀬戸内5県を対象としたうえで、そのうち特に観光客の立寄り促進や新規開拓が望まれるしまなみ海道沿道の島嶼部を中心に、地域の個性や資源を活かした観光振興と交通充実施策の提案とともに、その推進体制等の検討を行ったものである。

### 2 アクションプランの策定

しまなみ海道は、広域周遊観光旅行に対応した観光施設の不足や誘致圏の狭さ、交通機関の利便性の低さ等の問題とともに、今後の状況変化や旅行ニーズの多様化に対応した新たな取り組みが求められている。

これらの現状を踏まえ、地域の個性と資源を活用した魅力ある観光地づくりや公共交通機関の利便性向上による瀬戸内地域の振興を図るため、連絡橋の観光資源としての有効活用や広域からの誘客方策等の検討を行い、アクションプランを策定した。

#### 2.1 施策の提案

アクションプランの策定に当たっては、「広域周遊型観光」と「目的型・滞在型旅行」の2つの旅行スタイルについて並

行的に取り組みを行うこととし、短期的な具体的施策とともに中長期的な施策についても取り上げ、今後の施策検討の指針となるよう配慮した。

なお、施策の重要性・緊急性により優先順位の明確化とともに各施策の先駆けとなる先行施策を提案した。

#### 2.2 しまなみ海道を拠点とした広域ルートの創造

しまなみ海道と瀬戸大橋を軸とする広域的な「瀬戸内8の字ルート」を中心に、しまなみ海道と船舶を利用したモデルルートを提案し、瀬戸内海沿岸地域など周辺観光ルートと連携して観光客の誘致に取り組むこととしている。

#### 2.3 個人型旅行への対応としまなみのファンづくり

個人による目的型・滞在型観光旅行とその成熟化の進展にともない、風光明媚で温暖な島でのんびり過ごしたい、というニーズは今後増加してくると思われる。そのような志向を有する層を繰返し来訪する需要を誘致するため、学習・体験型の宿泊施設等と一体となった観光システムの構築などの施策の提案を行った。

また、これらの施策推進に当たっては、しまなみ海道自体の観光資源と交通の魅力度向上や情報発信が不可欠であり、海路の魅力や自転車・歩行者併用として建設された連絡橋を活用した魅力ある観光地づくりの施策、観光交通の魅力の充実施策、イベントの充実、観光・交通情報の発信、プロモーションの展開など具体的施策の提案を行った。

### 3 アクションプランの推進体制

施策の具体化に向けて、しまなみ海道沿道地域を中心とした瀬戸内地域の住民、行政、観光関連事業者等のそれぞれが担うべき役割を明らかにした。(要約:調査室 調査役 鈴木和実)